

# ドキドキの体験

上道 司

UEMICHI Tsukasa

積水化学工業(株)  
環境ライフラインカンパニー  
滋賀栗東工場技術部更生管技術課

皆さん、ドキドキすることありますか？

若い頃は、ドキドキする機会が多くあった記憶があります。学生の頃には、部活の試合や受験、恋愛、社会人になっても、仕事では開発製品の実験やお客様への説明会、プライベートでも、競馬場で高額馬券を握り締めながらゴール板前で絶叫する瞬間…、新たなチャレンジをする瞬間には、少なからず皆さんもドキドキする瞬間があるかと思います。

年を取るにつれ思うことですが、ドキドキする体験が少なくなってくる気がします。なぜかと考えると、若い時は経験が少なく、初めての経験が多かったからだと思います。年を取るにつれてさまざまな経験を積んできた結果、将来を予測する能力が増したのかと思っています。

学生のように若い頃って、自分の1年後、5年後って、何をしているか想像するのは難しく、想像しても自分の夢と重ね合わせて、希望に満ち溢れた楽しい想像をしてドキドキしていませんでしたか？

一方、社会人として年を重ねると、1年後のみならず5年後自分が何をしているのか容易に想像できたりします。私は、積水化学で開発の仕事をしていますが、入社後しばらくは、分からないことだらけで、開発がうまくいっても、失敗して上司に怒られても、説明会で多くのお客様の前に立ってもドキドキしていました。しかしながら、30代、40代とならにつれて緊張することが少なくなってきました。

ある時それに気づいた私は「年をとってもドキドキする体験ができないかな？」と思うようになりました。

私が学生の頃、「進め電波少年」というテレビ番組があって、芸能人が宿の予約もせず、行きと帰りの飛行機チケットだけをとって海外へ行き、少額の資金を片手に、数日かけて与えられたミッションをクリアしていくという企画がありました。行き当た



アンコールワットにて

りバッタリの旅の中で食事をし、現地の公共交通機関で移動し、英語圏ではない現地の安宿に飛び込んで泊まるようなことをやっていました。

この番組を観ていた時には、まさか自分がこのようなことをする日が来るとは思っていなかったのですが、ふとこの番組を思い出し、一念発起、34才で行動に移しました。

初めての海外一人旅はエジプトへの8日間の旅でした。成田空港から首都カイロへの直行便があり、行き帰りのチケットと、到着が夜だったため、1泊目の宿だけ予約し、バックパックに最小限の荷物を詰め込んで飛び立ったのを覚えています。それから、毎日がドキドキの連続でした。現地のバス、タクシー、電車に乗るだけでも、乗り方も分からず、また乗れば今度は降り方が分からない。安い食堂では、メニューが読めない、飛び込みで宿に泊まろうとしても、満室でなかなか宿が見つからない夜もありました。

でも人間は案外順応性をもっているもので、日が経つにつれ、更に高いハードルを設定していくのです。今考えると自分でもびっくりですが、現地の寝台特急に乗り、「王家の谷」をレンタサイクル（ママチャリ）で何kmも走ったりもしました。クフ王のピラミッドは朝1番目に入場し、中には誰もいない貴重な時間を過ごすこともできました。常に体中からドーパミンが噴出しているような体験でしたね。

それから、まさに中毒症状で、無性に海外1人旅がしたくなります。1番の思い出は、ベトナムへの旅です。ハノイまでの航空券と帰りはホーチミンからの航空券だけを取り、8日間の気ままな一人旅



ジムニー車中泊

を予定していました。最初の2日間はハノイやハロン湾をウロウロしていたのですが、もっとドキドキしたいという欲求がでてきて、ここでも一念発起、カンボジアへの越境を思い立ち、ハノイの旅行会社で航空券を取ってアンコールワットまで飛びました。

皆さんは私が自由に旅行しているので、英語は話せるだろうと思われるかもしれませんが、単語の羅列くらいの会話ができる程度の実力です。ですので、ベトナムの旅行会社でカンボジア行きのチケットを取ったときでも相手の話の半分も理解できていませんでした。でも何とかなるものです。カンボジアでは、たまたま同じ年だった観光バイクタクシーの運転手と意気投合し、一緒に飲みにいき、片言の英語だけで、2時間飲み明かしました。

最近、嫁さんの監視の目も厳しく、なかなか1人では海外に行くことができないですが、新たなことにチャレンジしています。

昨年、通勤に使用していた軽自動車が21万km走ったところでとうとう動かなくなりました。新しく中古の軽自動車を買おうとも思ったのですが、最近のアウトドアブームに便乗しようと、ここでも一念発起、人気の新型ジムニーを購入しました。とてもコンパクトな車ですが、後部座席がフラットになり多くの荷物が積めるほか、前のシートを倒すと全体がフラットになり、車中泊も可能です。

私は歴史好きなので、ここ1年は主に車中泊をしながら史跡巡りを楽しんでいます。現在の職場は滋賀なのですが、一番楽しかった旅は、3連休前の夜に会社を出発し、車中泊をしながら日本海沿いを、京都→鳥取→島根→山口と旅したことです。最終目



ソロキャンプ

的地は長州藩の藩庁である萩に設定しました。実は歴史上の人物で一番好きなのが高杉晋作で、1人息子の名前も「晋作」なのです。山陰地方は、特に関東の方なら観光地としてはマイナーかと思います。でも鳥取砂丘、松江城、出雲大社などなかなか見どころもあります。行きは下道の旅でしたが車中泊をしながら移動し、車も少なく渋滞を経験せずに萩まで到着することができました。今では、ジムニーには、夏用・冬用の寝袋を積んであり、思い立てばどこでも行けるようにしています。

さらに最近始めたチャレンジは、今流行りのソロキャンプです。日頃は、ありがたいことではありますが仕事が非常に忙しく、仕事に追われる毎日を過ごしています。キャンプは、自然の中でのんびりと自分の好きな時に好きな事ができるのですが、何もかもが経験したことがないことなので、のんびりしながらもドキドキの体験を味わえます。

とりとめもなく書きましたが、皆さんはどのようなドキドキを味わっているのでしょうか？

限られた時間の中で行う、仕事とのギャップが大きいこのような活動が、仕事、プライベートそれぞれの充実感をもたらしてくれているのかと感じています。

今後も引き続き、新たなチャレンジを求めていきたいと思っています。